

# 科学的問屋有用論

問屋無用論から50年

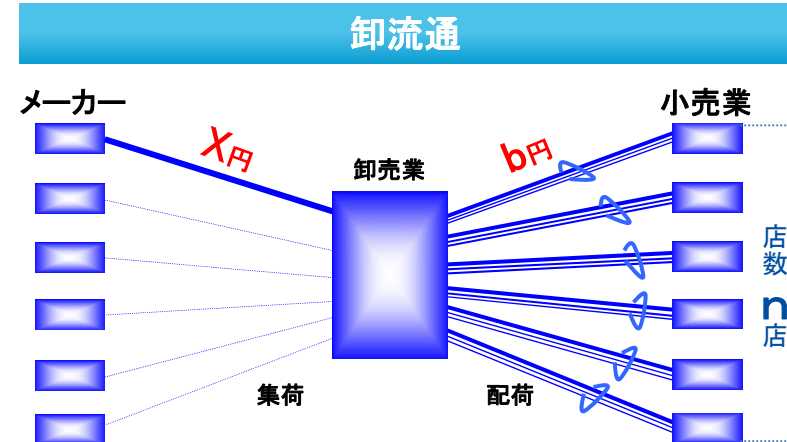
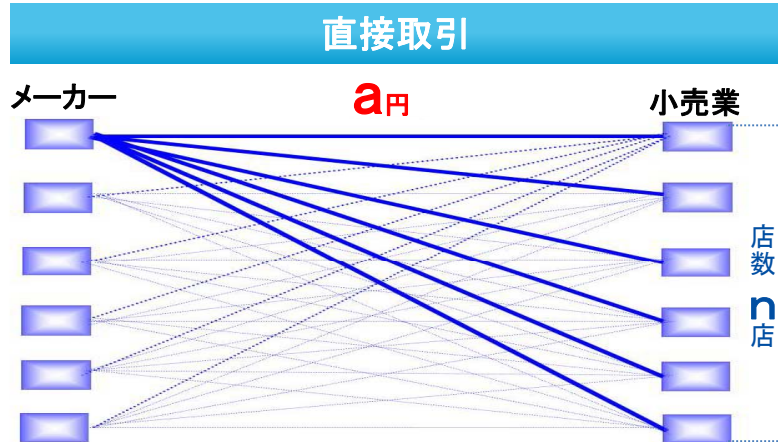
卸売業の社会的有用性と日本の流通インフラの凄さ

代表取締役会長

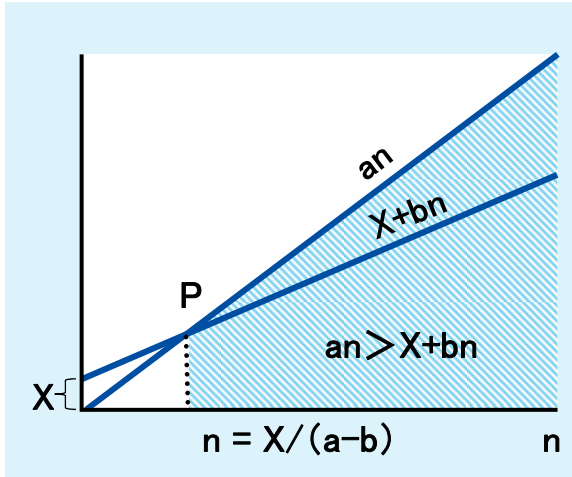
たまにゆう ひろまさ

玉生 弘昌

# 卸の社会的有用性の数学的証明



$Cost = an > Cost = X + bn$



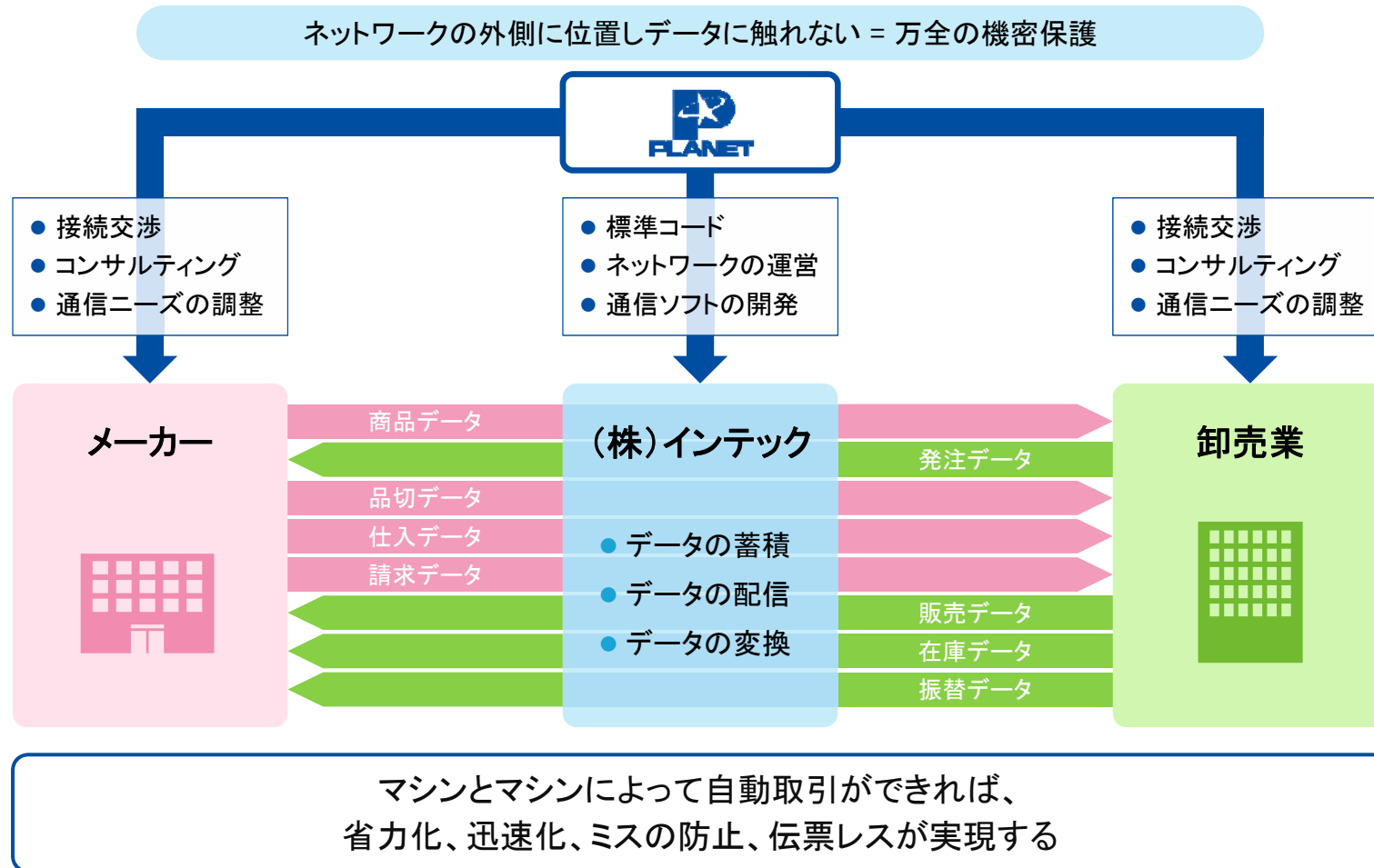
$a = 500$ 円	$a = 500$ 円
$b = 100$ 円	$b = 50$ 円
$X = 100,000$ 円	$X = 50,000$ 円
とすれば、	とすれば、
<b>P点のnは</b>	<b>P点のnは</b>
<b>250店</b>	<b>111店</b>

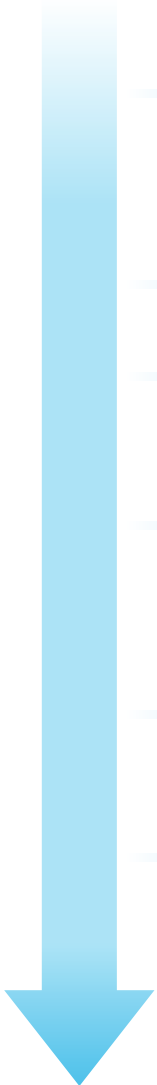
- $n$ が多ければ、  
 $an$ よりも $X+bn$ の方がより安くなる。
  - 卸の努力で、 $b$ を小さくすれば、  
 $X+bn$ の方がより安くなる。
  - メーカーと卸で、 $X$ を小さくすれば、  
 $X+bn$ の方がより安くなる。
- 以上は小売店の数を変数としているが、メーカーの数を変数として同様な解析しても、メーカーの数が多い場合も卸流通の方が安くなることを証明できる。

# Xを大幅に安くした業界インフラ「プラネット」

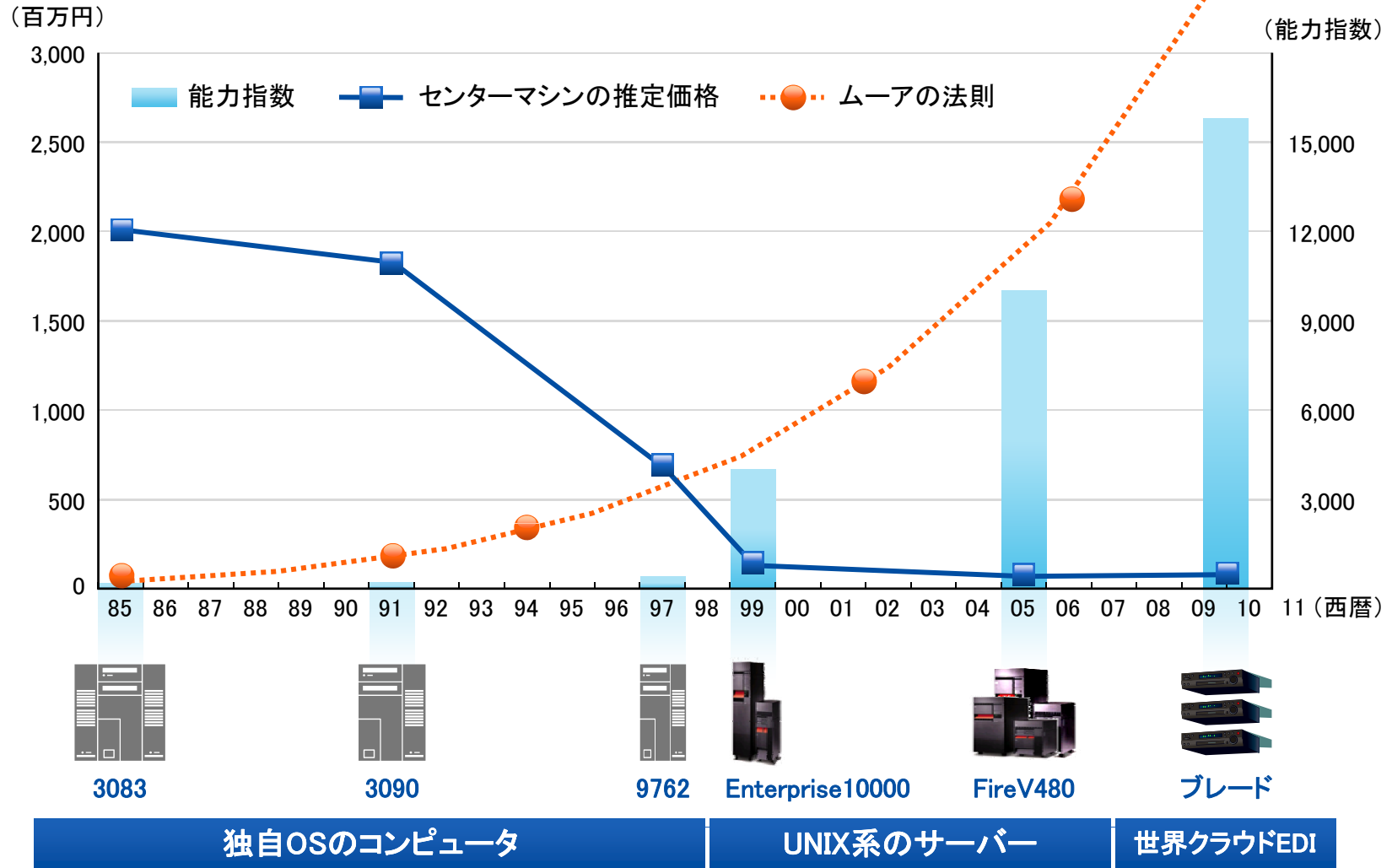
EDIを容易に始められる業界インフラがあると、業界の受発注、出荷、請求回収業務のコストが安くなる。

※ EDI: マシンとマシンとを接続し電子的にBtoB取引をすること



- 
- 1985年4月「電気通信事業法」による通信の自由化、VANがブームに
  - 1985年8月 8メーカーとインテックにより(株)プラネット設立  
ライオン、ユニ・チャーム、資生堂、サンスター、  
エステー、日本製紙クレシア、ジョンソン、牛乳石鹼共進社
  - 卸売業200社に端末機を無償配布、複数対複数のネットワーク構築
  - 業界インフラとしての理念  
「システムは共同で、競争は店頭で」「安全、中立、標準、継続、安価」
  - プラネットは、業界ユーザーのための会社  
業界ユーザーのために、最適な技術とシステムを選び、安く共同利用する。  
「テクノロジー、標準、パワーバランスを常にウォッチングする」
  - 6回のセンターマシンの入換えで、大幅なコストダウン  
8回の値下げを実施
  - 創業10年目で約100メーカーが参加、名実ともに業界インフラとなる  
現在は、1,100社のユーザー 月間平均1億2千万レコードの通信  
業界規模で自動発注、自動受注、伝票レス  
「省力化、迅速化、ミスの防止」システムメリットを実現

# プラネットセンターマシンの推移



## 一般的なインフラとは

水道、ガス、電気、鉄道、道路など、生活者や企業が活動する上で支えとなる構造物。インフラがある世界とない世界では、生産性が大きく異なる

### インフラの条件

「安全、公平、標準、継続、安価」、  
広くあまねく

## 業界インフラとは

業界の企業が活動する上で支えとなる構造物。インフラがある業界と、ない業界では生産性が異なる。  
ただし、業界インフラは、ユーザーみんなが競争会社

### 業界インフラの条件

データの機密は、絶対に守る。ただし、  
トランザクションデータとマスターデータでは異なる

- **トランザクションデータ** (発注データ、仕入データ、請求データ、など) 個々のユーザーの情報、機密性が大切
- **マスターデータ** (商品DB、取引先DB) 標準コード附番、業界共有化が大切

## プラネットは

**トランザクションデータの機密は絶対に守る**

**マスターデータは、業界の共通財産として運営する**

# 定型業務と非定型業務

## 定型業務

### ● 基幹系システム

決まった手順で決まった結果を出す仕事

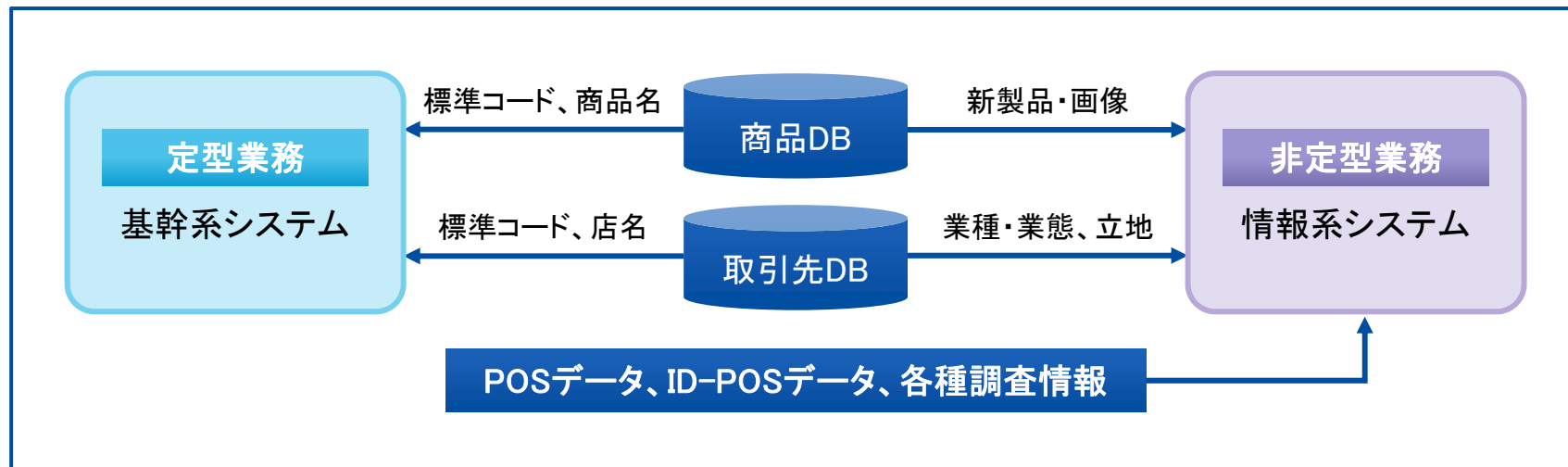
$$\text{定型業務の生産性} = \frac{\text{一定の結果}}{\text{より少ない経営資源}}$$

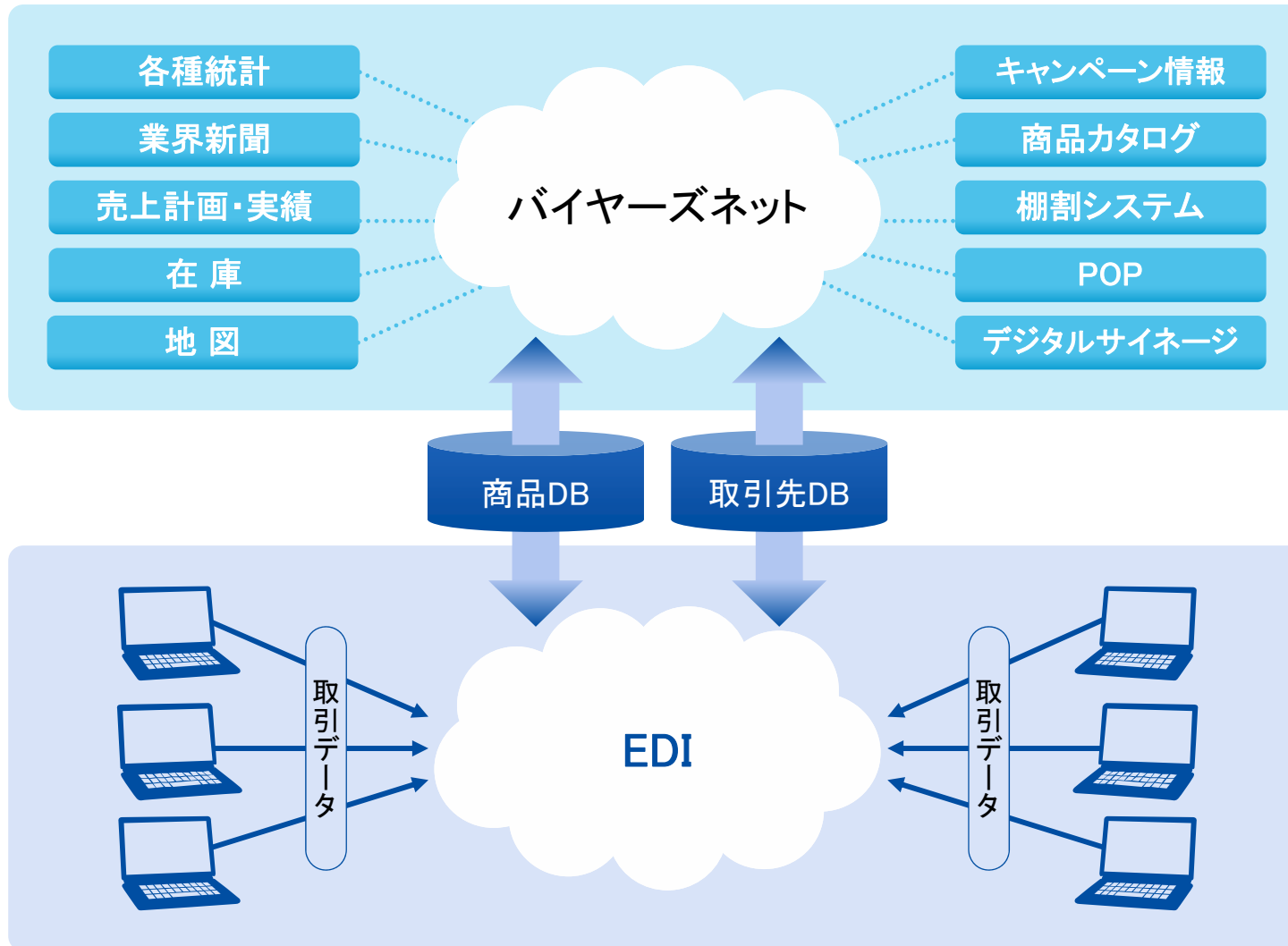
## 非定型業務

### ● 情報系システム

分析、企画、調整など多様な手順で、多様な結果を生み出す仕事

$$\text{非定型業務の生産性} = \frac{\text{より価値のある結果}}{\text{一定の経営資源}}$$







## 「カスタマー・コミュニケーションズ(株)」のビジネスモデル

- 小売店にFSPを提供し、データの分析サービスをする
  - 扱ったID-POSデータはマスキングしてDB化
  - メーカーなどにID-POSデータ分析サービスを行う
- 「カスタマー・コミュニケーションズ」の保有するID-POSデータの大半はドラッグストア
- ID-POSデータは、購買履歴が分かる  
⇒ ブランドスイッチが分かる
  - シェアを失った場合、どこのブランドに奪われたかが分かる
  - 逆に、シェアを増やした場合、どこのブランドから奪ったが分かる
- 5,000万人の購買記録データ
  - 非常にレアな購入者でも把握できる
- 2008年 プラネットが筆頭株主に
  - 三菱商事
  - 博報堂プロダクツ
  - マクロミル
  - 三菱食品
  - 加藤産業
  - 中央物産
  - 大木 など
- 「産業革新機構」の出資決定
- プラネットより、取締役1名、監査役1名を派遣
- ID-POSデータの中立的公平な運用を目指す

プラネットはこれからも  
業界インフラとしての姿勢を  
大切にします

ご清聴ありがとうございました



一般消費財を全国津々浦々に滞りなく安価に供給する、という社会的機能を果たしていながら、半世紀前の「問屋無用論」の影響で過小評価されてきた日本の卸売業の重要性、そして卸売業が支える社会インフラである日本の流通機構の優秀性に光を当てるべく、執筆した書籍です。

- 目次：
  - 第Ⅰ章 日本の流通機構の中核 卸売業
  - 第Ⅱ章 「問屋有用論」数学的証明
  - 第Ⅲ章 健全な日本の流通機構と日本人の幸せ
  - 第Ⅳ章 社会インフラとしての流通機構
  - 第Ⅴ章 成功したプラネットのインフラ
  - 第Ⅵ章 レガシー問題と流通EDI
  - 第Ⅶ章 日本のインフラを世界に
- 発行所：国際商業出版株式会社
- 発行：2013年6月25日
- 定価：1,728円(本体1,600円+税)
- 体裁：B6変型(縦182ミリ×横130ミリ)
- 頁数：184頁